

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	81人	算数	81人	理科	81人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	77人	算数	77人	理科	77人
------	----	-----	----	-----	----	-----

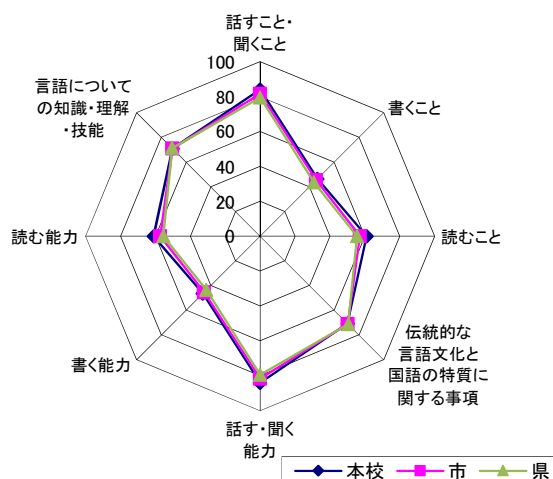
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.0	81.6	79.4
	書くこと	46.4	45.4	43.6
	読むこと	61.0	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.9	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	84.0	81.6	79.4
	書く能力	46.4	45.4	43.6
	読む能力	61.0	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	70.9	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

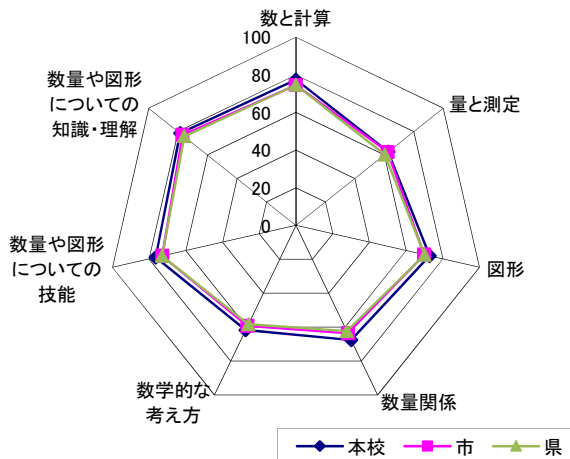
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、84.0%で、県平均より4.6ポイント上回っている。話し合いの内容の聞き取りの問題では、90%以上の児童が、話の中心に気をつけて聞くことができていた。</p> <p>●話し合いにおける意見の理由を考える設問では、選択肢があるものは正答率が高いが、作文しなければならないものは、正答率が低い。</p>	<p>・自分と相手との考えの共通点や相違点を整理しながら聞くよう指導していく。</p> <p>・朝の学習の時間や帰りの会で、スピーチをしたり質問をしたりする時間を設ける。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、46.4%で、県平均より2.8ポイント、市平均より1ポイント上回っている。</p> <p>●報告レポートを作成する設問では、読み手に分かりやすいレポートの書き方が十分理解されていないこと、調べて分かったことを要点をまとめて書くことができていない点が見られた。</p>	<p>・伝えたいことを明確にして書くことを、国語だけではなく他教科や様々な活動で取り入れていく。</p> <p>・文章を書くときには、適切な順序と言葉づかいに気をつけて書くことができるよう指導していく。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は、61.0%で、県平均より5.5ポイント、市平均より3.8ポイント上回っている。説明文の内容を読み取ることは86%、物語文の登場人物の気持ちを想像して読むことは82%の児童ができていた。</p> <p>●登場人物の気持ちを想像して読み取ることは県平均より正答率が低かった。</p>	<p>・朝の読書の時間を充実させ、登場人物の気持ちを読み取る指導をしていく。</p> <p>・朝の時間に行っている五分間読解ドリルを継続して行い、内容を読み取る力をつけていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●平均正答率は、70.9%で、県平均より0.5ポイント、市平均より0.2ポイント低かった。漢字の読み書き、ローマ字の正答率は、市、県の平均を下回っている。</p> <p>○指示語の役割は、県平均より4.5ポイント上回っている。</p>	<p>・漢字では、週に1回のミニテストを継続して実施し、作文や日記などでも漢字の使い方を繰り返し指導していく。</p> <p>・ローマ字の習得については、大文字と小文字を繰り返し練習し違いを理解させると共に、自分や友達の名前、身の回りの物をローマ字で表せるように指導する。</p>

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.4	74.5	74.6
	量と測定	62.7	62.4	60.4
	図形	72.8	69.9	70.1
	数量関係	67.6	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	61.7	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	76.5	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	78.7	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

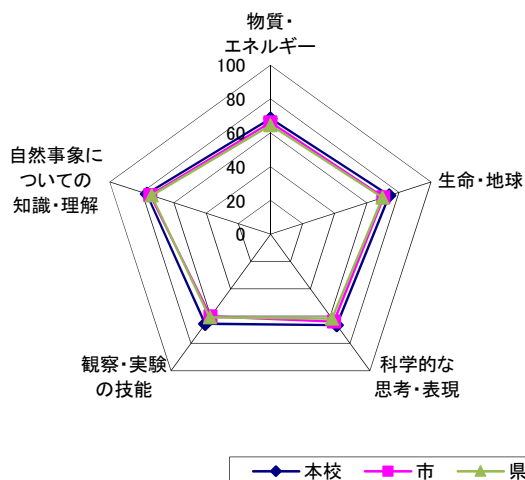
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○●平均正答率は77.4%で、市や県の平均正答率を約3ポイント上回っている。しかし、単純な四則計算でも、繰り上がりや繰り下がり、位の間違いなどのケアレスミスも多く見られた。</p> <p>●数直線の1めもりの大きさを読み取る問題、あまりのあるわり算の答えを確かめる式を完成させる問題につまずきが見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業始めに行っている計算練習(計算ストレッチ)を今後も継続して行い、計算力を高めていく。 3けた×2けたのかけ算については、正しい筆算の仕方を再確認し、朝の学習や宿題などで計算練習することで定着を図る。 問題の場面を正しく理解できるように、図や数直線、半具体物などを活用した授業を行う。
量と測定	<p>○平均正答率は、62.7%で市の平均正答率より0.3ポイント、県の平均正答率より2.3ポイント上回っている。</p> <p>●ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ問題や、ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題では、それぞれ57.6%、39.2%と正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重さや長さの学習では、具体物の活用や、生活の中の場面を想起させることで、単位と実物の量を結び付けて実感を持って理解できるようにする。また他教科との関連を図り、実際に計測する体験を増やし、見当をもって問題に取り組めるようにする。 時刻と時間については、学校生活の中で残り時間を意識したり、計画を立てて活動に取り組んだりする場面を意図的に設定したりすることで、時間の感覚を養うようにする。
図形	<p>○平均正答率は72.8%で、市や県の平均正答率より約3ポイント上回っている。</p> <p>○円と球・三角形に関する基本的な知識は身に付いており、円の直径を求めたり、三角形を作図したりする問題の正答率は市や県よりも高い。</p> <p>●箱に入ったボールの半径を求める問題では、市や県の平均正答率より約3ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 円の半径や直径の関係、三角形の構成要素など、基礎的な内容を身に付けさせるために、朝の学習や宿題などを活用し繰り返し問題を解かせる。 プリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設け、知識や技能の定着を図る。
数量関係	<p>○平均正答率は67.6%で、市や県の平均正答率より約4ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフから分かる内容を選ぶ問題はよくできており、グラフを読み取る基礎的な力は身に付いている。</p> <p>●記述式の問題では、市や県の平均正答率を上回っているものの、自分の考えを言葉や式で説明することができない児童も多く、誤答45.6%、無回答15.2%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 類似問題を繰り返し行い、問題場面を想像しながら、解答できるよう指導する。また、日常生活に密着した問題を数多く取り上げ、数学的思考力や判断力を育成していく。 説明で用いる言葉や説明の順序を指導し、児童自身に書かせる活動を多く行わせ、説明することに慣れさせる。 問題文の意味を正確に読み取ることができるよう、問題場面を図や絵、言葉などで表現する場を設けるようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.4	66.1	64.4
	生命・地球	73.9	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	66.7	64.1	61.9
	観察・実験の技能	65.6	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	77.0	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は68.4%で、市や県の平均よりも2ポイント以上上回っている。</p> <p>○平均正答率は、市や県と比べて2ポイント以上上回っている。風やゴムのはたらきでは、ほとんどの設問で正答率が80%を超えており、市や県の正答率よりも大きく上回った。</p> <p>●日光を重ねた時の明るさと温度の変化を考察する設問では、平均正答率は市や県よりも高かったものの、正答率が30%しかなく、まだまだ定着していない。また、磁石の性質についての設問や電流の流れる通り道についての設問では、正答率に大きな差があり、全体的に定着度は低いと考えられる。</p>	<p>・平均正答率の高い内容については、練習問題や発展的な学習を通してさらに理解を深めるとともに、自分なりの明確な問題意識、課題意識を基に問題と仮説を立て、それらを解決、分析するような学習に取り組ませ、考える力や、学力の定着を図る。</p> <p>・日光の明るさや温度に関する分野に関しては、教室内外や校庭などといった身の回りの事象と合わせて、類似問題を用いて、再度日航が集まることで温度が上昇することを確認し、知識の定着を図る。</p> <p>・磁石の性質や電流の通り道などについての分野は、高学年・中学校での発展的な内容につながる重要な分野であるため、磁石の基本的な性質や、電流の流れ方についての内容など、基礎的事項の復習・繰り返しを通して知識を定着させる。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は73.9%で、市や県の平均よりも3ポイント以上上回っている。</p> <p>○植物の成長に関する設問では、全体の正答率が90%を超えており、市や県と比べて平均正答率が上回っている。昆虫に関する設問でも平均正答率が高く、理解度は高いといえる。</p> <p>●時間によるかげの変化に関する設問や、方位磁針の適切な操作方法についての設問では、平均正答率は市や県よりも高いが、正答率が約50%ほどであり、技能や知識の定着に差があるといえる。</p>	<p>・平均正答率の高い分野は、振り返りシートや練習問題を活用しながら理解を深め、更なる定着を図る。</p> <p>・かげの変化に関する設問は、太陽の位置や高さによって、影が変化することの関係性を、振り返りシートや練習問題を活用し定着を図る。</p> <p>・方位磁針の適切な使い方に関しては、観察や実験の際に道具を使う活動を十分に保障し習熟へとつなげる。反復して道具を使うことによって適切な操作方法を定着させる。</p>

宇都宮市立御幸小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学びの基礎力】

○「家の人と学校でのできごとについて話をしている」「家の人と学習について話をしている」の質問の肯定回答が、県・市よりも多かった。普段の生活についてしっかりと家庭で話合いがなされ、家族に見守られているという安心感のもとで生活している児童の様子がうかがえる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」について95%の児童が肯定的回答をしている。これからも子どもの考えのよさを引き出し、称賛しながら支援していきたい。

●「難しい問題に出あうとやる気が出る」「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」の肯定回答が、県・市よりも少なかった。不思議なことや分からないことについて調べ、自分で解決する楽しさを感じられる授業を工夫して展開していきたい。

【社会的実践力】

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だ」の肯定回答は、どちらも県・市より7ポイント以上上回っている。「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」「クラスは発言しやすい雰囲気である」と考えている児童も多ことから、自信を持って発言できるような声かけや学級の雰囲気づくりに今後も努めていきたい。

【学級力】

○授業の中で、めあてを明確にし、振り返りをしっかり行うことを重視してきた。その結果「授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」に肯定的に回答した児童の割合が、県・市のよりも高い。ノート指導を中心に、児童がその時間の目標(めあて)を意識して学習に取り組めるよう努めていく。

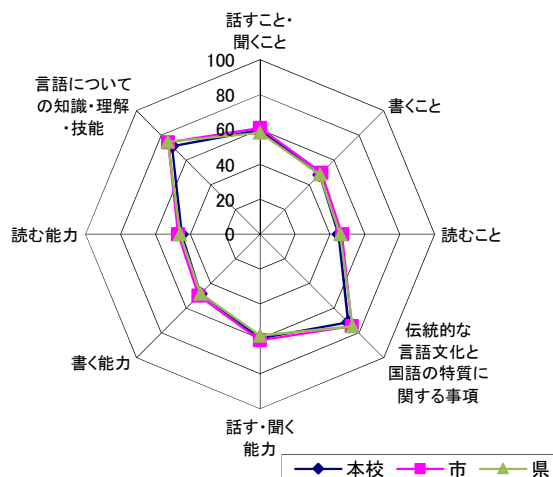
【家庭学習力】

●家で学校の予習、復習をしているという質問に対して、市や県ともに平均を下回っている。特に予習については約15ポイント以上低くなっている。また、宿題の他に自分で考えた勉強をしているという質問に対しても、5ポイント以上低くなっている。「家で学校の宿題をしている」の肯定回答が97.5%であることから、家庭学習の習慣は身に付いていると考えられるので、宿題だけでなく自主的に家庭学習に取り組めるよう、具体的な学習方法を示したり、家庭に協力を呼びかけたりして改善を図ってきたい。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	59.6	60.8	58.1
	書くこと	48.2	49.8	48.3
	読むこと	45.0	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.4	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	59.6	60.8	58.1
	書く能力	48.2	49.8	48.3
	読む能力	45.0	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	71.4	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

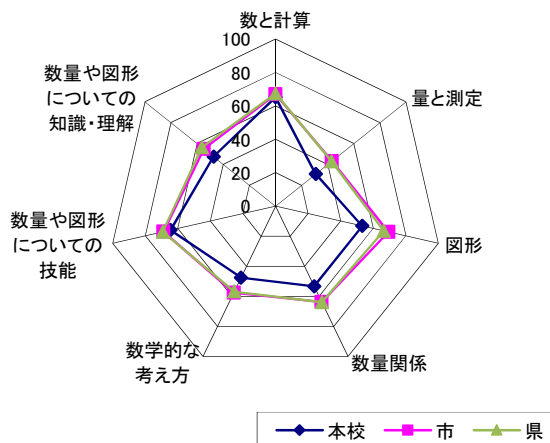
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は59.6%で市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す」設問や、「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」設問については、比較的稳定した正答率であった。</p>	<p>・現在行っている朝のスピーチ活動を継続して行い、人前で自分の考えを述べることについての耐性を十分に養っていきたい。</p> <p>・全教科において、話し合い活動を十分に設定するとともに、互いの共通点や相違点を明らかにしながら問題を解決していく指導を充実させていく。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は48.8%で市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「掲示物の内容に合う資料を選ぶ」設問や、「資料(表)を基に説明する」設問では、平均的な正答率であった。</p> <p>●「インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く」設問では、正答率が低い傾向にあった。</p>	<p>・資料をもとに適切に情報を取り出して編集していく力は、国語科に限らず、社会科や総合的な学習の時間など、多様な場を通して伸ばしていく。また、これら問題解決の場を、言語能力の育成の観点からも、適切な指導が行えるようにしていく。そのための場や言語活動の設定について、職員間の情報交換を密にしていく。</p>
読むこと	<p>●平均正答率は45%で、市の平均よりも2%近く、低い結果である。</p> <p>○説明文を対象とした「段落の要点を捉えて要約する」設問や、「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する」設問では、比較的高い正答率を示していた。</p> <p>●文学作品の内容の読解については、全体的に低い傾向にあり、特に「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」設問では、低い正答率を示していた。</p>	<p>・文学作品の読解力が低いことから、朝の五分間読解ドリルを用いた活動を充実していく。特に、登場人物の心情に特化した読解問題の実施と、答え合わせ、見直しの活動を丁寧に行い、読解力の向上を図る。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み書きについては、全般的に正答率が高く安定した結果となっている。</p> <p>●平均正答率は71.4%で、市や県の正答率よりも1.5%近く、低い結果となっている。</p> <p>●ローマ字の習得については、市や県の平均正答率よりも大きく下回る結果となっている。</p>	<p>・現在行っている漢字チャレンジテストについては、継続して実施し、学力の安定を図る。</p> <p>・ローマ字の習得については、外国語活動のワークを活用しながら、アルファベットを書く活動に親しめるようにする。また、自分の名前や身の回りの物などを積極的にローマ字で表す学習を通して、能力の向上を図る。</p>

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.2	66.9	67.4
	量と測定	30.8	43.2	43.0
	図形	53.3	69.4	66.5
	数量関係	53.3	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	47.5	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	64.5	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	47.4	54.9	56.4



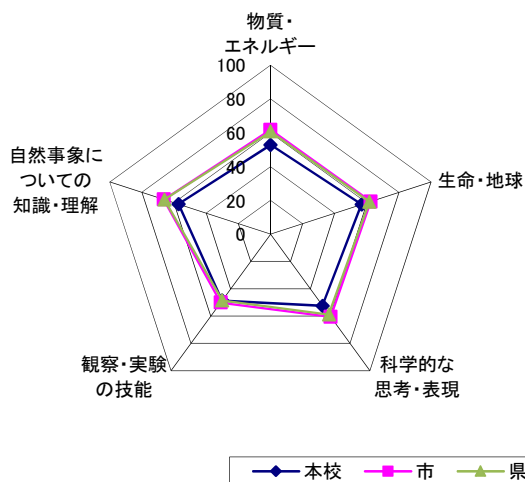
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ○小数についての理解は、市や県の平均正答率より5ポイント以上、上回っている。 ●平均正答率は65.2%で、市や県の平均正答率を1.5%以上、下回っている。 ●商に空位や余りがあるわり算や、同分母で繰り下がりのある分数の計算が、それぞれ市や県の平均正答率より10%以上、下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業始めに行っている計算練習(計算ストレッチ)を今後も継続して行ってい、計算能力を高める。 ・わり算や分数の計算については、正しい筆算の仕方や帯分数を仮分数に直す方法を再確認し、宿題等で計算練習することで定着を図る。 ・問題の場面を正しく理解できるように、図や数直線、半具体物などを活用した授業実践を行う。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は30.8%で、市や県の平均正答率を13%近く下回っている。 ●買い物の場面で一つの式に表した考え方を完成する式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明するなど、記述式の問題の正答率が低い傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の学習が日常生活に役立っている場面を教えたり、身の回りにあるものの面積を、実際に測定する活動を意図的に行ったりする等、算数的活動を多く取り入れ、数の感覚や学習したことを実感させていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は53.3%で、市や県の平均正答率を13%以上下回っている。 ●平行四辺形の作図の問題では、市や県の平均正答率よりも26%以上下回っており、苦手意識がとて高い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規やコンパスを使った作図の仕方を再確認するとともに、朝の学習や宿題等で繰り返し練習する。 ・現在も実施している習熟度別学習、個に応じた支援を継続して行い、定着を図る。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は53.3%で、市や県の平均正答率を10%近く下回っている。 ●全体的に正答率が低い傾向にあるが、特に単位の関係やブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す活用問題での正答率が20%近く低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に密着した問題を数多く取り上げ、数の組み合わせを思考させる場を設定し、思考力を育成していく。 ・表やグラフを正しく読み取り、答えを導き出す活動を、教科を超えて継続して指導し定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.8	61.7	60.7
	生命・地球	56.7	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	52.5	60.6	58.9
	観察・実験の技能	48.7	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	57.2	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>●平均正答率は52.8%で、市の平均より9%近く低い結果である。</p> <p>○「結果を見通して、実験を構想することができる」や「指示語を使って、凍らせてはいけない理由を説明する」設問はほぼ県や市と同等な正答率であった。また、「盛んに泡を出しながら沸き立つことを沸騰と分かる」設問では県や市の平均正答率を8%近く上回った。</p> <p>●ほとんどの設問で県や市の平均正答率を大きく下回った。特に「金属は熱した部分から順に温まること分かる」設問では、県や市の平均正答率を35%近く下回る結果となった。</p>	<p>・練習問題や発展的な学習を通してさらに理解を深めるとともに、自分なりの明確な問題意識、課題意識を基に問題と仮説を立て、それらを解決、分析するような学習に取り組み、学力の定着を図る。</p> <p>・単元のまとめとして提示される発展的な実験や現象と教科書で学習した基本的な事柄との関連や共通点を見出し、学習を意欲的に取り入れ、生活と結び付けて考える力をつけていく。</p>
生命・地球	<p>●平均正答率は56.7%で、市の平均より6%近く低い結果である。</p> <p>○「方位磁針の適切な操作方法が分かる」や、「オオカマキリの図と同じ季節のカエルのようすが分かる」設問では、平均的な正答率だった。</p> <p>●多くの設問で市や県の平均正答率を下回った。特に「ラップの内側に水滴が付いた理由を説明する」設問では10%近く、「気温の変化から天気の様子を推測し、理由を説明する」設問では市の平均正答率を20%近く下回る結果となった。</p>	<p>・振り返りシートや練習問題を活用しながら理解を深め、更なる定着を図る。</p> <p>・観察のポイントや必要な道具・器具の使い方を丁寧に指導し、全員に体験させることで定着を図る。</p> <p>・天気の様子に関しては、観察する機会を設けると共に、デジタル教材などの映像資料を活用したりして知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立御幸小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学びの基礎力

●「家の人と将来のことについて話すことがある」、「自分はクラスの人の役に立っている」、「自分は勉強が良くできる方だと思う」、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という設問についての肯定的回答は県や市を下回っていたり、半数だったりと芳しくなかった。自ら学ぶ力や学習計画力、自己肯定感の向上などが課題である。得意な学習で活躍する体験の場や称賛の場などで意図的な教師のかかわりを行っていく。

社会的実践力

●「授業で自分の意見を文章にまとめて書くことは難しい」という設問についての肯定的回答の割合は、県や市を7～11ポイントと大きく上回ったのに対し、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問については県や市の平均と同程度だった。多様な表現方法で自分の考えを伝える力を伸ばしていくため、表現の仕方をあえて限定したり、個人に選択させたりする。表現することへの抵抗を軽減させ、人前で話すことにも積極的に取り組むようにしていく。

学級力

○「友達との話し合いで話や意見を最後まで聞くことができる」という設問についての肯定的回答は県や市を上回っている。学級への所属意識や役割への責任感や使命感の強さが感じられる。また、友達との良い関係を学習に生かし気持ちよく進めていこうという意欲も感じられる。これらのことを下地に、分からない問題があったときの学び合い活動につなげていける支援を行っていく。

家庭学習力

○「家で、学校の宿題をしている」という設問に対する肯定的回答では、1ポイント程度ではあるが、県や市の平均を上回った。やるべきことを意識し、家庭学習に取り組もうとする力が育っている。引き続き意欲の向上につながる家庭学習の課題を提示していく。

●計画を立てて学習を行うことや授業の予習・復習をすること、課題を自分で考えること等の設問についての肯定的回答は、県や市の平均より下回った。学習を自発的に行うことや必要な内容を選ぶことなど、自主的に学習に取り組むにはまだ課題が残る。

学習方略

○算数の問題を解くときに、図・表・グラフなどを使って考えるようにしている」という設問についての肯定的回答は県や市と同じか少し上回る結果となった。授業の中でいろいろな解き方に触れたり、それぞれの良さに触れたりしていく中で身に付く力であると考えられる。授業の中で友達と意見を交換し合う等、多様な考え方や方法に触れる機会を意図的に設けていく。

●学習を進めているときに疑問点が出てきたら自分で調べてみる、学習を生活へと広げて学んでいる等に関する設問の肯定的回答は県や市を下回っている。授業で発展的なものを扱うときに、意図的に身の回りで生かされている事象や現象について触れ、関心を高めていく。

宇都宮市立御幸小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために	<ul style="list-style-type: none"> 音読活動の充実 計算ストレッチの実施 朝五分読解ドリルの活用 漢字50・計算25・チャレンジテストの実施等 	漢字の読み書きについては、平均以上の正答率となっている。 計算については、より一層の取組が必要である。 読解力については、取組の継続が必要な結果となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 国語の書くこと・読むことの設問で、誤答や無回答が目立った。 算数において数学的な考え方の正答率が低い。また、4、5年生でともに低い正答率の領域が見られた。 家庭学習の習慣化が十分図られていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 読解力をつける。 書くことを授業の中に位置付ける。 家庭学習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の推進として、図書室の活用・週末読書の推進・朝の読書・読解ドリルの活用（朝の学習の時間）のほか、新しい文章に触れる機会を増やす。 字数を決めて書かせる、算数の解き方を文章で説明させる、振り返りを文章で書かせるなどして、「書く」活動を取り入れる。 家庭学習について、具体的な指導をし、家庭にも協力を呼びかける。